



放射線利用研究に関する 放射線医学総合研究所の取り組みについて

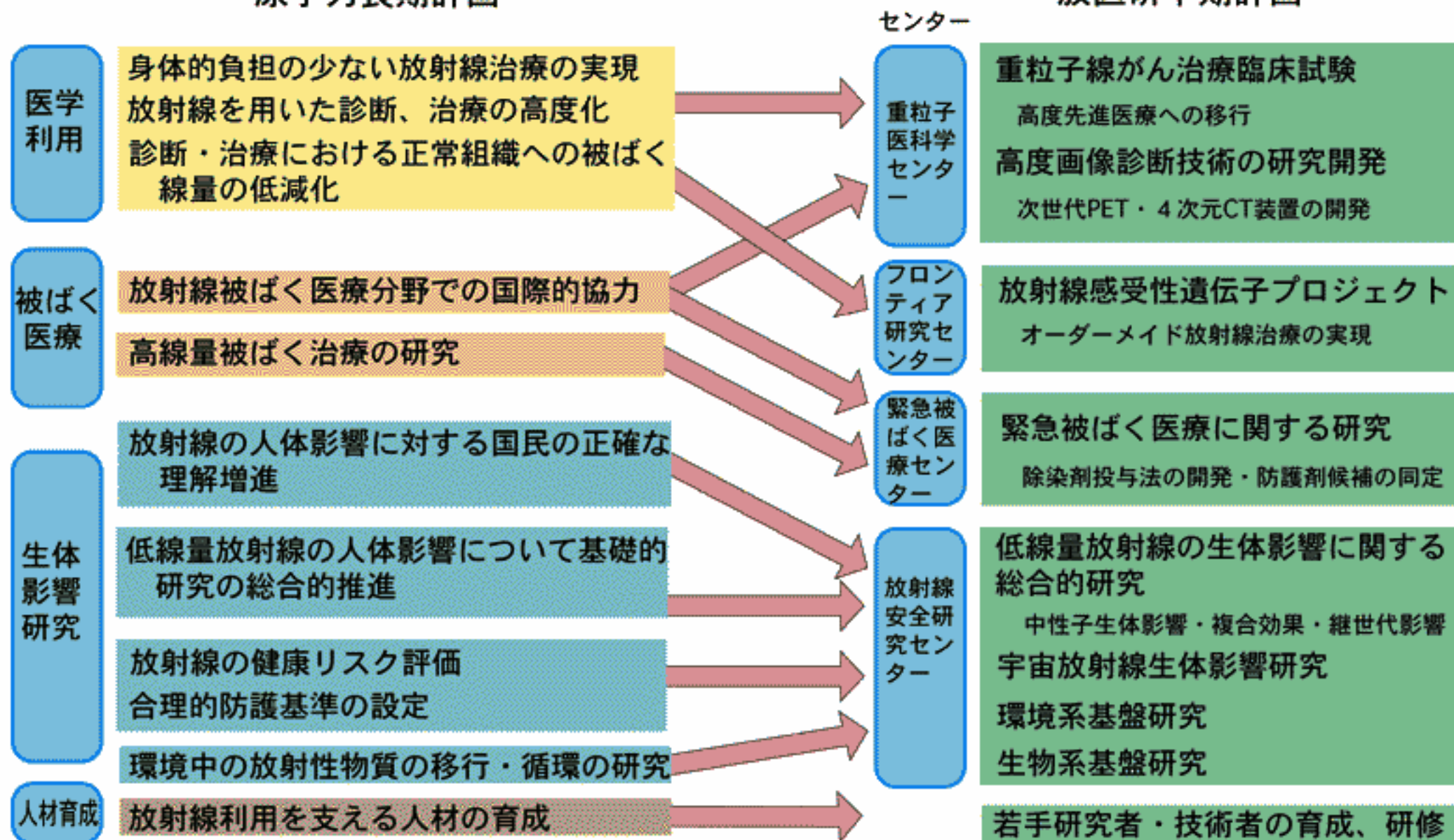
平成13年 9月26日

放射線医学総合研究所 佐々木康人

原子力長計と放医研中期計画

原子力長期計画

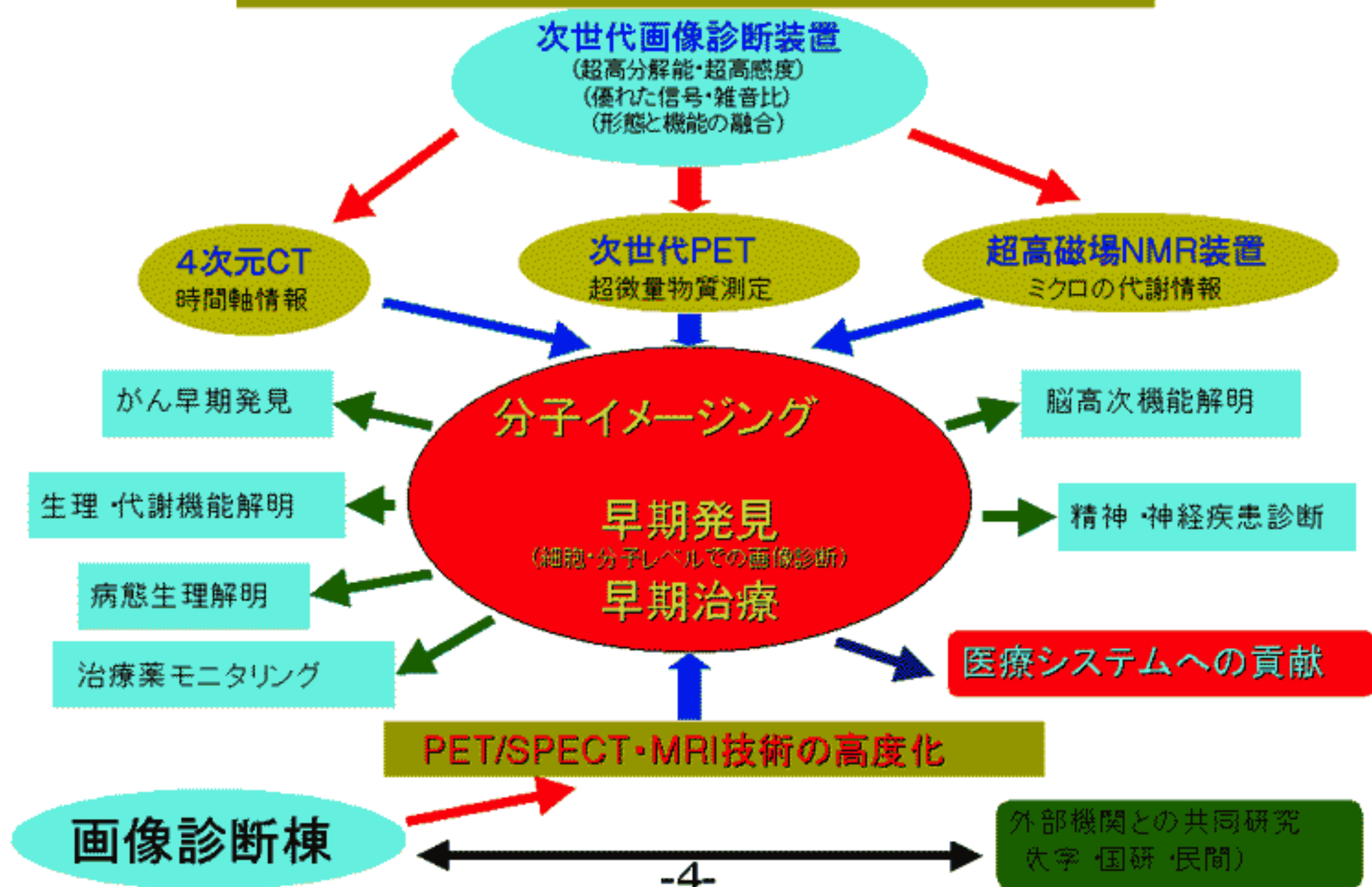
放医研中期計画



重粒子線がん治療—今後の展開

1. 高度先進医療としての重粒子線治療の推進
2. 超高精度照射技術の開発と臨床応用
3. 生物効果の解明
4. 遺伝子診断及び分子イメージングを利用したオーダーメイド治療の実現
5. 治療用小型加速器の開発
6. 重粒子線治療の普及のための人材育成および技術支援

高度画像診断技術の研究開発



生体影響研究における放医研の役割

放射線医学総合研究所

大学・研究機関等

キーワード

キーワード

照射・曝露
実験

実験動物

分子

メカニズム

被ばく

ヒト

生物学的
線量測定

分子疫学
研究

○低線量放射線生体影響プロジェクト
発がん（環境要因・遺伝要因）、継世代、
中性子

○宇宙放射線プロジェクト

○生物系基盤研究

プルトニウム、ラジカル、染色体異常
DNA修復、放射線障害の機構解明

○環境系基盤研究

ラドン、環境放射能の移行・循環、疫学研究

○原爆被爆者の長期フォローアップ
発がんリスク

継世代（F1, F2）影響
がん以外の疾患（心疾患等）

○基礎研究

○疫学研究

セミバラ
チンスク

チェルノ
ブイリ

協力
連携

放射線感受性遺伝子
プロジェクト

緊急被ばく医療
に関する研究

人材育成

放射線の健康リスクの評価
合理的な防護基準の設定

放射線の人体への影響等に対する
情報の発信と国民の正確な理解促進

国際的な防護基準の枠組み整備に貢献
UNSCEAR, ICRP, IAEA